夕刊
磐城新聞
一月四日
定價一ヶ月金六拾五錢　郵送料金六拾錢
（日曜祭日翌日休刊）

滿蒙問題に就て

郷土出身一將校（寄）

地理的關係

一般の地形的關係に於て我國は日本海、支那海を隔てゝ極東大陸と相對し中國の西部及九洲の北部は朝鮮半島に著しく接近し大陸に對し最弱點を成形して居ると共に朝鮮其ものは大陸への足掛りとして最好都合の關係となつて居る、然るに朝鮮併合の結果は我國防上大に有利となつたのであるが其朝鮮を保全する爲には國を境する滿洲を他の侵略國の手に委してはならぬ

是は昔から一貫した處の我國の國策であつたのである、即ち日清、日露の兩役に於て我國が國家の存亡を賭して戰つたのも皆是が爲である

殊に飛行機の發達したる今日滿洲に飛行根據地を有つたならば我日本內地其行動半徑內にある故に我國としては何としても滿蒙の地を他の侵略國の手に渡すことは出來ない

戰時資源の關係

平時に於ける我國內の不足は總て之を海外より輸入してをる國產のみで充足し得るは生糸、絹織物及水產物位のものである

元來我國の人口は年々八十萬人の增加を示して居る明治初年頃には三千餘萬であつたものが今日では六千四百萬、新領土を加へて千萬に達して居る、德川時代に國民は自給自活し得たが國民の二倍三倍に增加し且國民の生活標準の向上と奢侈贅澤等から一層物資の需要が增加して來た

そこで外國から補給を受けてゐる重なるものは

一、食糧品

米、麥、大豆、砂糖、鹽牛肉類等が年々一億、三億圓　肥料も二億圓に近い

二、鐵、石炭、石油等

三、其他羊毛、棉花の原料及其製品三億圓內外　建築材料二億圓

等であることは最近の統計に決してそうではない開田可能地が五十八萬町歩容易開田地が三十三萬町歩あり其豫想年產額は一千萬石である、然るに現在は僅かに五萬町歩年產百五十萬石に過ぎぬ。

鮮人の主食である關係上食料品問題解決の爲重要なる意義を有つておる滿蒙に於ける年產二千八百萬石、朝鮮への輸入は毎年二百五十萬石である

小麥　我國の年不足額は五百五十萬石である、是は北米及露洲方面から輸入しておる、滿蒙の年產額は今の處少ないが將來開發の上は之が利用の可能性は十分である。

大豆　滿蒙に於ける農產の大宗である、其生產年額三千八百萬石、全世界產出の六割六分を占めておる。吾人の每日口にしておる味噌、醬油其他の食料品中豆の利用は何れも滿蒙の產であることを忘れてはならぬ。

食鹽　主要なる產地は關東州で其生產高は四億一千萬斤であるが將來適地全部の鹽田完成後は十五億斤の產額の見込みである

以上の外豆粕は其需要の大分は滿洲產の輸入である。滿蒙に於ける生產高は一億五千萬擔（擔は百斤、十六貫）で我國への輸入は年々千四百萬擔位である。

此豆粕も今日各種の食料品、菜子類等に盛に利用せられておる、其他食料品は可なりに豐富であつて牛肉鳥肉、豚、羊、鷄卵等も可なりに輸入せられておる。

〔時代警句〕

○禍を招がんとせば先づ何時も心中に不平、不安、不淨無くして心を喜ばしくして居れば禍自ら來るものである、人を恨み、そねみくよ〳〵物思ひ顏をしがめなどせば折角※かかつた福も逃げ出すものである……

お目でこう

蕉水

初雞や霜に明けゆく平街

初雞や大地に殘る月の影

かしこみて聲ほがらなり初詣

舞猿や滿蒙の地圖踏み破り

涙もて戰報を聞く炬燵哉

早春（童謠詩）

山口正夫

野川の堤
春めいて
餅草つみの
童たち

うららうらゆれる
かげろふに
白い手拭ひ
ちらちら見える

日高も跳ねる
せせらぎに
柳も靑く
うつります。

講談

俠艷女長兵衛

東京　斯波南叟（魚崎潮畫）

（一〇〇）

中の橋邊まで來ると、向ふから來た人物、急いで居るらしくバツタリ三五郎に突當つた　三『何んだい』老『ごうも濟みません、眼がり形ちを見て不審でならなは兎も角命だけはお救ひ申上げたいと、神佛へ念願を掛けて居たところ、折好く今晩隣屋敷から出火、風向き惡しく必ず延燒と云ふ、屋敷中のものが狼狽して取片付に氣を取られてゐるので、其際に若樣浪彌樣を奪ひ出し王子の十條は生れ在寶生重英外）

△三、四〇A　氣象通報

△二、〇〇C　能樂（羽衣、

△〇、四〇A　新年子供大會

△正午　A　時報　氣象通報

今日午後の番組豫告　告知事項

△一〇、三〇A　講演（申に因める話）文學博士笹川臨風

△一〇、三〇A　講演（申に倍季雄

△九、三〇A（子供の時間）童話（お猿の航空兵）安

△九、〇〇A　氣象通報

新年宴會

△九、〇〇A　氣象通報

△八、〇〇A　二、月形半平太　熊岡天堂

△八、三〇A　三、火の山　生駒雷遊

△九、〇〇A　四、悲戀火焰　塚加藤柳美

△九、四〇A　時報　氣象通報　番組豫告　積雪量

△七、三〇A　一、搔拂の一夜　渡邊一秀

△七、〇〇A　ニュース　氣象通報　告知事項　番組豫告

映畫物語の夕

△六、三〇B　特別講演（昭和七年展望）

△六、〇〇C（子供の時間）童話劇（お猿の顏はなぜ赤い）名古屋雜菊童謠會

△三、四〇A　氣象通報

△二、〇〇C　能樂（羽衣、

△〇、四〇A　新年子供大會

△一〇、三〇A　講演（申に倍季雄

△九、三〇A（子供の時間）童話（お猿の航空兵）安

△九、〇〇A　氣象通報

新年宴會

△九、〇〇A　氣象通報

△八、三〇A　三、火の山　生駒雷遊

△八、〇〇A　二、月形半平太　熊岡天堂

△七、三〇A　一、搔拂の一夜　渡邊一秀

△七、〇〇A　ニュース　氣象通報　告知事項　番組豫告

映畫物語の夕

△六、三〇B　特別講演（昭和七年展望）

△六、〇〇C（子供の時間）童話劇（お猿の顏はなぜ赤い）名古屋雜菊童謠會

△三、四〇A　氣象通報

△二、〇〇C　能樂（羽衣、寶生重英外）

△〇、四〇A　新年子供大會

△正午　A　時報　氣象通報

今日午後の番組豫告　告知事項

臨風

月曜論壇

名刺交換會

相互の廻禮を省略する意味に於て催さるる平町の恒例名刺交換會が逐年趣旨の普遍を加へつつあるは諸事簡捷を第一とする當今の時代に相應はしい試みであつて而も元旦の劈頭に於て之種の生活改善を實踐するは種々なる意味に於て欣ぶべき事ではあるが、當局が常に其の間の改善に腐心し出席者亦其の感を同じうしつつあるに拘らず自身會場に至らず使用人等をして會費の代價を受取らしむる向が依然として尠からぬ一事は會の趣旨目的から觀て極めて香ばしからぬ傾向である更に催しに對する忌憚無き理想を語るの僭越を怨さるるなれば、場内は須らく町内別に分類し隣保相歡語し得る底の便宜を與へて欲しいと思ふ、未知の人に隣り默々として宿醉の苦盃を甜むる餘り愉快でもなさそうな光景は之の邊の考慮と施設を閑却された平町の名刺交換會に於て良く見受くる處の實例である、若し夫れ一般會員にして催しの趣旨を穿き違へる事無く當局亦前記の遺漏無きを期するなれば平町の名刺交換會は百尺竿頭一歩を進めてより有意義な効果を收め得るであらう

消防出初式

星斗爛干たる寒天に凜然炸裂する煙火と警鐘一點まだ一點。凍てつく黎明の街は恒例の消防出初式によつて異常の緊張味を帶びつつ喫け放れて行く。コバルトの天高く躍る梯子乘りの勇姿よ！ティレン勇ましく街を疾驅する自動車喞筒の偉容は家屋の燒跡を眺めつつ第一！吾人の生命財産は一に○大隊の宿營に到着致しまし之種の精鋭なる消防組の活動によつて始めて完全に保證せられて居る、恒例四日の出初式に於て正々堂々一糸紊れざる組員の規律訓練と整備せる器具機械の活動を見る時之れによつてよりした、滿洲は一望千里の概良く其身命財産の保護を受けつつある平町民の矜持を覺へ其間一種感激の念を禁ずる能はざるものがある、平消防組の前途を祝福して已まない

本社の慰問に對する謝狀一束

滿洲から

根が石城の乾つ風で完全に鍛えた身体だ

北滿の寒氣も左程で無い！

上遠野村出身　松本秀之輔君

小兵等の爲めに毎日明十八日我軍は拂曉より總攻撃になり我が大隊は日中に敵に發見される恐れが有る爲に夜を利用致して陣地進入する事になりました。其の時は唯一人居る者無く戰鬪恐れて銃聲ばかりで有りました

我が砲兵も　豫定の陣地に到着して砲車の散兵壕を堀りて夜明を待つて居りましたが其頃は四時頃から零下三十度位に降下致して耐へ切れぬ程の寒さで有りました。石城の風と寒さに部落に休んで夕食を腹に入れ樣とする時は飯盒は氷の爲に金ハシが曲ると云ふ有様でした、午後四時頃チチハルへ向ひて追擊前進となり、赤き太陽が落ちて冷たい月の案内にてチチハルに前進致しました、途中は夜中の爲敵彈にて一名戰死と負傷者六名を出しました。十九日の朝は非常に寒さが厳しくて何とも云ふ事の出來なかつた寒さでした、二十日午後五時チチハル城を占領して宿營中に凍傷患者が續出する事夥しい、それで小兵等はあの石城の寒さと風とに鍛へられたる身体の爲、凍傷にならずして北大營に宿營する事一週間にて十一月二十九日チチハルを撤退して今は駐剳隊に歸りて大元氣にて軍務に服して居りますから御安心下さい、これも皆々様の御蔭様で有ります。先は御禮まで。

平町入營兵

八、九兩日出發

平町左記二十四名は八、九兩日に亘り下記所屬部隊に入營する

△十五丁目岩崎達雄鴉山砲第一△材木町和田國雄歩三〇△仲間町倉島一郎鐵道第二△長橋町長谷川惣次郎工第二△鍋田町吉村榮助同上△紺屋町高橋正歩第四△立町船山幸次鐵道第一△紺屋町高木清一電信第一△下川原木村忠雄飛第五△六間門西潟元三同上△古鍛治町蓬田茂同上△紺屋町近歩第三看護兵丹谷定一△才槌小路松本茂雄近衛野砲△南町鉛地二郎横須賀海兵△材木町菜花茂同上△仲間町佐藤二郎歩兵第二九△二丁目板橋芳夫同上△白銀町小林重孝同上△長橋町菅野淺雄△田町大島熊一同上△三町目柏原英介歩二九看護兵△番匠町鈴木出藏△研町佐藤亥之吉同上

下縣　警察署長異動

伊藤氏平署長に返り咲

樫村氏は警務課入り

底氣味悪い空氣を孕み乍ら春へ持ち越された縣下警察界の異動は愈々御用始めの今四日次の如く發表された

（新）

衛生課　樫村慶
任警部　平署長　伊藤儀七
刑事課　小林光盛
四倉署長　梁川
警部補　鯨岡恒
特警部補　伊藤榮次
保安課　高等課長　横山宗延
刑事課　大久保富彌
高等課長　喜多方
警務課　中村吉田庄作
依願免官　郡山署長　後藤清喜
宮城縣　猪狩清
氣仙沼　警務課　八巻胞次郎
原町署長　原吉三郎
中村　富岡　園部勘次郎
川俣　四倉　松本重吉
刑事課長　山崎秋
練習所　鈴木長松
宮城縣へ　喜多方春
保健課　田口喜孝
石川　佐藤吉之進
柳倉　佐藤勘四郎
川俣　星貞司
保安課　本多勇次郎
三春　菅澤鐵五郎
猪苗代　菅野二郎
田島　若松
高田　佐藤正志
桑折　菅野福七
梁川　千葉友治郎
警務課　中村鐵夫
特高　衛生課　富岡
任警部　刑事課　大松崎久一郎
特高　福島
桑折　猪狩晃
警務課　阿久津義保
保安課　齊藤吉
健保課　田島　絲川七郎
休職　矢野、百川、森谷、青木、橋本、箱崎、矢部

昨年より一割五分減

正月三日間に於ける

平驛の乘降客數

平驛に於ける正月三日間の乘降客は左記の如く昨年より約一割五分減で附近町村間の往復は略ね自動車を利用した觀がある

	乘	降
元旦	一、一九六	一、〇六五
二日	一、二七八	一、〇三六
三日	一、三七七	一、〇九五

濱三郡木炭同業組合

創立十周年記念

來花時をトして擧行

濱三郡木炭同業組合では來花時をトし創立十周年記念式を擧行し優良組員表彰其他を行ふべく目下寄々準備中であると

同組合に於ける昨年一月以降十二月迄の生産高は實に百九十五萬俵の多數に上り前年より三十萬俵を增し組合豫定の百五十萬俵より約五十萬俵近の增で急激なる剩餘金の蓄積その他成績日と共に向上の一途を辿つてゐる

平消防組出初式

永年勤續者を表彰後　聚樂館で新年宴會

早朝から既報順序により執行梯子乘りを以て町内一巡後一時から平署會議室で左記永年勤續者及び火防組合の表彰を行ひ了つて聚樂館に於て新年宴會を催した

◎永年勤續表彰者

（卅五年）小頭高根澤長太郎（三十年）伍長涌井兼作（廿五年）前副組頭石坂詮太郎（同）部長鈴木長三郎（三〇）假名―は取押へられたが同人は舊臘（同）消防手鈴木喜一郎（十年）消防手鈴木定一（同）渡邊三郎

◎退職者記念品贈呈

前消防手松本忠次郎外五名

◎本期間精勤表彰

辻金太郎外

◎火防組合表彰

紺屋町、六七町目、田町四町目、鎌田町、長橋町銀治町、研古、大工町、

四倉警察署管内出初式

初式は明後六日午前九時より四倉町仲町海岸に於て擧行する筈

感化院の脱走兒

平驛待合室で盜み損ね

張り込みの警官に捕はる

東京府下北豐島郡上板橋町生れ蛭田豐一（二〇）假名―は一日午前三時頃平驛待合室で好間村大字上好間生れ宮田トノ（三九）の風呂敷包を盜たものと判明引續き取調中昨三日決定何れも陸離さる

郡下各所から現金を盜み廻る

檢擧された赤井の一工

赤井村大字赤井土工最上忠取したのを平署が檢擧取調治（三八）は去月三十一日閑村の結果昨年九月以來郡下各愛谷堰事務所へ忍び入り現所で約千五百圓の窃盜を働金三百二十八圓五十錢を窃いて居た事を自白した

大晦日のま晝間

服毒自殺を遂ぐ

小名濱のヒス女房

小名濱町字本町廣吉妻中野アサ（三三）は去る大晦日の午前十時頃家人の隙を見澄しテリーが高じた結果らしい自宅に於て多量の流酸を嚥下して自殺を遂げた、ヒス

積み上げて店頭

暗さ初荷かな

一昨二日の俳句大會で

鈴木秀山氏が最高點

平町潮聲吟社、好間村十好年衛生部幹部候補生として會、内郷菱畑吟社三社合同入營し除隊後も引續き前記主催の新年俳句大會は既報の如く二日午後零時から平町マルトモ屋上で開催され、出席三十二名で互選の結果最高十六點で好間村鈴木秀山、次點同村金成碧洲、三等内郷高根澤長太郎（三十一）伍長涌井兼作（三十五年）前副組頭石坂詮太郎（同）部長鈴木長三郎（三〇）氏は同町新川町木村病院長夫妻の媒酌にて大浦村上仁井田渡邊貴一氏長女はつ子（三三）嬢と婚約整ひ二日華燭の典を擧げた。新郎は千葉醫大卒業後同大學の研究室に在つて研鑽を續け昨年主人の現金二百五十圓を盜んで同女に發見された際父松次郎が留守中その妻に挑み肱鐵を喰つた事に因を發してゐるのだと

△臺灣全島　各地料理屋

十一ケ所を渡り歩いた原籍三重縣名賀郡阿保町北川丈三子（二〇）は此程突然臺北驛に下車し同驛詰有馬巡査の自轉車を失敬して走り出したので巡査は『泥棒ッ』とばかり追つかけると犯人は悠々南署に乘りつけ『どつか酌を』と談じ中で人をよんだところ犯人は其儘逃走した。所轄御油れた同人は被害者と再從兄だつたのである

△富山縣　婦負郡八尾町

東町嫁入り道具商山田松次郎（五五）は豫てより長男甚三郎（三三）を毛嫌ひ次男良司（二八）に遺産を讓るべく策謀した、不和は昨秋甚三郎が埼玉縣下で病氣の爲入院した際父松次郎が留守中その妻に挑み肱鐵を喰つた事に因を發してゐるのだと

△臺灣全島　各地料理屋

十一ケ所を渡り歩いた原籍三重縣名賀郡阿保町北川丈三子（二〇）は此程突然臺北驛に下車し同驛詰有馬巡査の自轉車を失敬して走り出したので巡査は『泥棒ッ』とばかり追つかけると犯人は悠々南署に乘りつけ『どつか酌を』と談じ中で人をよんだところ犯人は其儘逃走した。所轄御油れた同人は被害者と再從兄だつたのである

△岡山縣　津山市田町

△大垣市　廓町二七雜貨廢業津垣四三二（六五）の長女左脇二二柿田和子（三）があ南大塚石太郎の店員小畑直くに（二四）は婿養子阪本幹夫の夜同町御馬街道を通行中一（二〇）は此頃同家長女大垣（三五）と謀り合つて病中の先背後から怪漢をとり出でう高女四年生いし子（一七）を絞しろ抱きにして片手で變な扼し同女が鼻血を流下して危害を加へんとするので夢昏倒するを見て逃走せんとの父の二人を殘したまま手に手を取つて家出した盲目の父よりも大事に遺産を讓るべく策謀

△愛知縣　寶飯郡御津町

△大垣市　廓町二七雜貨廢業津垣四三二（六五）の長女左脇二二柿田和子（三）があ南大塚石太郎の店員小畑直くに（二四）は婿養子阪本幹夫の夜同町御馬街道を通行中一（二〇）は此頃同家長女大垣（三五）と謀り合つて病中の先背後から怪漢をとり出でう高女四年生いし子（一七）を絞しろ抱きにして片手で變な扼し同女が鼻血を流下して危害を加へんとするので夢昏倒するを見て逃走せんとの父の二人を殘したまま手に手を取つて家出した盲目の父よりも大事

△岡山縣　津山市田町

△大垣市　廓町二七雜貨廢業津垣四三二（六五）の長女左脇二二柿田和子（三）があ南大塚石太郎の店員小畑直くに（二四）は婿養子阪本幹夫の夜同町御馬街道を通行中一（二〇）は此頃同家長女大垣（三五）と謀り合つて病中の先背後から怪漢をとり出でう高女四年生いし子（一七）を絞しろ抱きにして片手で變な扼し同女が鼻血を流下して危害を加へんとするので夢昏倒するを見て逃走せんとの父の二人を殘したまま手に手を取つて家出した盲目の父よりも大事